湖月抄

ろへあいけ

尤曜歴文庫

繪合

花 以詞為書名 うらく朔より絵合とつづくこころばへなり
ものがたりの沙汰なるべしあらみこけとりの若ようのこと
げとあつせくわくそふるくあり 何 前奇宮女御与弘徽殿
女御有繪合こと真故号之 細 両度乃忌あつせあり 四くさみの
始とかたり天德の亭合より模しくさけるくさくさ合象
後を村上よりしる也 花 後拾遺集の詞四くさ 親王絵合の
ものみくさくさ 扇合 和歌合根合あどくれ 亦とくさく 略要と
ものくさくさ 源氏 表世界の時のもの也 絵合八三月の比のものなり
九九界のものくさ 把沼よりあくさ ものや 哭 代世 源氏 世界み
をづくしの巻とこの巻とのるよ一年あるべし

前 歌合の沙汰のこと
細 秋好之冷泉院の女御
よりもり給へ歌合の人
四条わりく入内の例河海
よみくさくさ 河 之正天皇
治時 井上内親王 聖武天皇女
養老五年 為歌合 後光
仁天王 納為后 その酒
人内 歌合歌の後 桓武
の宮より 細 朝原内親王歌
あのくさ平城乃天より 納
朱雀院 時 徽子女王天
慶九年 為歌合 後天暦
朝 為女御 畧記
細 歌合のはまりのもの 源
氏九九界のものあるべくさ
くさ和くさ故くやもものの関忌
若月 為歌合 細 入内のくさ
より入内のくさ 正三月の日に
入内のくさ 比 あつせやり
ていあるべくさ
所 絵合三月の比なれば
中宮の 暦 春雲 中宮
そもくさくあるよくい

前 歌合のこと
花 いまはくもの
いまはくもの 細 源氏
くさくさ
くさくさ
くさくさ

[illegible] 細 [illegible]
[illegible] 細 [illegible]
[illegible] 細 [illegible]

一夜下向し給ふ也林の者こそとりられのうへにはかふけよ由来あるまじきさうしの内をとこ
ひかくくろうるべきさまよ神のいさめ給へとく 孟 神やうに云よ髪と云入ル 法花経
弼の掃をさうしのひてこてび給へ内ふそこのすゑとのすゑまでなり。毛奉 養 使るべし 副給しに
そ付の内すとそこをそこうるべきさに法花経よ神のいさめ給へとく祈文一所代一度向
給へ 祈ぬ米の内五位の内祈文也
ぎこうれとかんど 孟 此特くの内青信内奇ふぎをこ
よえ氏内こをを源の人付ふたりべ
ひとこでけすい 細 冷泉院へまいり給ふす業雀院の内をとーうう給へこ 発 同
ううこまいめ
ふすくくあれどうう
細 氏入内のすい只紙ん一うの
ふすこう 孟 入内のすとふ
こふりひうて業入内ふ
せとこ
うしこもそひすしこと
細 氏内の左近のうすこ 発 調
居るどのすよ業雀院を痕
とうこすこ 明 同
ひうこく 細 業雀院の
内ひのけうくもうこと
思ふすこ 仲 源の左近ハ
無后ふどのわざこて業雀
ハ原をいとうり給へうれど
かうり

やはりとこんうれ 孟 業の内ふと源のこひうこう
みこうれこ 孟 よりうてんうこう無き
にくあれどうかうこ法ひへうこ
ぐこうこ内ぐうやまこんこうこ
ふりひこうこ 細 けどうこうこ
けんぐんをうど孟りひこうれまて
こうこ 孟 時 日本紀
うこふすこのけうこいうこに

まこ内をこうこ
細 院こうりハ内文もあうべこと
こ 孟 業雀院こうりの文ひこと
こ 孟 源のゆこくこうこて前
南よこうひふふ
内ここハひこそこて 孟 業雀
こうりの文をハ女別南源へ
ふけをこうこあこ
いこのうあここ
細 源をふくこていうふ
こ業ここうり元 源氏の
内何こ
こうこうり 細 こ南くこ
こいなくこもりされこ
せいこ海よもふをこふ
なくこいここ元こ法いこ
いこ 孟 地ぐいこうこ
細 大臣殿ここのふこ内殿
こ内こうこひふこ
まのここハ業雀院こ元こ
業こ 発 同
あこれこんここまこうあひ
内ふこふ 孟 こ内欲こふ十
四業こうれいふふ大臣こ

こうふこ法こんふここれこここここいこ
あどこうここ 孟 前南こ
内ふこはえひここうこ孟 発こ
ここここはこうこいこ内こふこ法こ
ここんこいここここここ
ここのここここここ
ここ源のここここここ
ここここここここ
ここここここここ
ここここここここ
ここここここここ
ここここここここ
ここここここここ

みて表よりひらくに
左は島帋の 細は島帋同じ
裏にまきらかに 曉を
わかのまに 紅るは島帋なり
と思へる歌
花
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（細弘徽殿梅つぼ）

とわたりてあまつ雲をうつりこゆるかりがねの
さいこえ海づらやうの物語あるこう海やうの
ものへの物語（細ちりぬる後ともせ）ゆへありてこと殿
いそのの世世よりはづしくかうぎりを
えりそこうをうれびこころめのいまめく
さいるやうこは（細弘徽殿の階しうこ）いてこてるくまこれうこ
の女房（細伴ドうこ）るどもとりこれいうれを
などさうぎめあへ子をひぎろのくとよを
（細薄きこ）
めりやまをこうこせこまつるこうろみて
うづくはらんじてをてこうこ物をを
こうるれいはをこうひもをこうつ法

（細因よてづきあども法
らんぜ〜彩〜
（不審物出）
なをこ八南くの絵合えづ〜梅
壺と弘徽殿女御の法絵
と女院の法えりあり
法花ようて合せこうこ
絵合ハ二度まで
めいまの梅つぼの御方に
て内の法えよあわせこう
こ、梅ハ御殿にて梅壺
の女院と弘徽殿の女御と
の御絵と合せこうこ
御式御絵こうこの御絵と
行ってかりこうこ内の
法絵こうこいうこ
こうこ、めあ、梅の絵合
ハまぎれこ〜めれ絵
合も紙物のこくこうこ
の絵みこう〜梅つぼとこと
ぢんの法絵と梅壺の法
方みくあわせられこと
こうこ〜
（細天徳の合
のもけ　天徳の合

らんどとのつぎとりぐくよ海どろをこと
しめてひぎりこぎこうこうこを法じ
（法華十の六人いここうこの女房）
めぎのれうこ中はへいるつ
のるけ作絵
のるつ、かるの合海だ中はこの歌のるつれ
（ここでんのゆかりや）
のもけ中将の合海ハ宮殿の合ハ
はんみくこうこ
（細有歌河海よみこうこ物語ものこの人）
あくこのこうこ
しくまけ物絵のつぎこうこ
かるこけこうこのれこ
（ぜんとうこ物語）
うげをあはこてあこ
よりこうこ
（ヒイ）
（それのこうもあって天ニセこ）
とうくやびあのびこのこりみもくれ

よハ之衣典侍掌侍食ねるゝ方人〻うち敷よ此後合みもゝ例とゝ
竹とゝの枕ゝれよ　細　物つゝ方竹とゝうゝ
物語よいわゝゝ云百番よ題歌ゝゝ
太夏といゝゝ竹元の箱竹をゝゝ
のゝうゝうゝ
風の内とゝゝゝ
しゝれゝゝゝ
ゝゝのゝゝ
とゝ之ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

夜大風雨不減中有亂重百行毛長三尺可為帛若不浄火以焼之則浄号火洗布也
[illegible] 暁 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうんの中ゑを　雅とも云し　細　後の暴風ともゆりくらるのく　抄花壇
為てそうく　紀　朱雀院の御製に表うらけうへ今こそあれ花の大盤殿の御宴に
まてうまつりとく　孟　志めのかれとハ世をのがれ出てもゆかりもとれあらくハ　抄　ちりハ
標のまつ　ちりてしをりて　新　ちりくみ　注連のしめのうちに女房のすがたちりあり
ゆきくるさうんと
ゆ　花の日あるうんもゆ
と秋給のゆりてく
ゆ　のれんさ　晩　繁雄
とをくゝ　ゆてく　紅術の鋼
合と作ん　ゆ　ゆ　ゆ
敬愛　ゆ　ゆ　ゆ

也。主上第一ナリ。花式張合の内裏衆ハ天德四年三月廿日内裏歌合を摸してなり。其日基盤所之御倚子南北四間為左方座。後涼殿簀子為侍臣座。
西京記ニ云ク。
左ハ左ウノ方ニ。花天德
宇合ニ左方。測淚ニ紫檀机。
蘇芳下机。紫綺地敷。
今案左方絵ハ紫檀の蒔
絵入て蘇芳木にて
造る花足。又下机
ハ蘇芳の上に紫の綾
ハ蒲陶染の綾
の綿。天德のもの
紫檀。
て紫の綿をとりそへて
細
上よりとりそへて
上のもの地は紫の
なして。それは又机を
紫檀の絵入て
ハ。
絵を入る
花足ハ机の足
下机を
花下机
花
花下机
花
花下机
花
花
花

[illegible]や　畧記

[illegible]の文　細　判者の[illegible]の[illegible]絵とをとき絵あるよそをゆとるくゆゆあるて代

絵の判者をしるす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓋をとりけるに一面に花をまきちらしたるは中宮の
中宮の御方の絵ゑどの方に、かすみたる山のけしき也
左方の絵　細　左方一番の勝と
なし一番にかちぬ右方の絵
なり　晩日
花の宴合は鶯梅とそあ
らく天徳の宴合は金殿玉
枝を例にとりてなり
この歌はよもすがら花の枝
をとりてとりわかるや
中納言のはんさいなるなり
次の巻はあらそはなり
源氏君絵のことは、ここ
にあり

この世よりかくれ
ぬ絵をとりよりてはて
式のをはよかりてなり
どのうちにひろうをく
こゝにあり

そのあとにんみ
彼絵の巻　物語
やうにまさりたる
それのうちは日記は
孟はまさしく記録のや
うにはなく
こゝにあり
絵巻の巻のあは他
かたりなり
孟次の巻の絵のけう
の絵ともくらべられ
ひくらべられなり
天徳の宴合は勝負
なし
河勧孟事・天徳御厨子所供御菓子物・清涼殿大内記座獻孟ヲ見西宮記

そのうれるくさあるつまるさうしい
のはんなの名あるくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり
なのうちくさ日記はあるに表なり

命さいてへ　細　顔回ノ不幸
短命ノ者ハ　孔子ノ言葉
四科ノ好学ノ不遷ノ怒ノ不貳ノ過ノ不幸短命死矣　論語
文人数寄　詩人薄命
文集

あるからよ氏たるもの、
うらんひそ
ふさうこそでも人よを
とるまじ　ものもあるも高
のいつぬてそなれど
命幸なるびくさきれど
まあるからよ　あるひまひ
そとそ　源氏を　ゆくは竜
竜の上その勅をなりて
うんざいの　細　天下を政ら
ぐさ方と　ゆくそ人　後
盃政をを当ふ人さとそ

もうぐくうんようろとうれて作ーて
をうーをざそえるでつろわぐくやゆん
じうん　後の　細　相つの西門
とうりの世よいとりくすりのるれ
じやわうん　いろをくこわろんの命
さいとうるびめろいとろきりの
よるんられさくじまれそでよる
おとうまじうんほどてあれぐらよこの
ろうるくるひそこいさあさせる
ひくうんざいのうぐくの　辛　細
ーよつうるるさとりすくまさとうさ
てびこくふうろこもゆくぐうさ

字活面八方ものごとは精を
入るべずくの改のうとへ
うをけるるん　盃深の
ろくるるよいうてへ活
ふうろそてうさとと
ひーとのるく
ふゆくぐり　お　紋字　勝の
くぐうとつくーえぐや
とかひーくく
ずしぬ山ぐいよりて
細　を面の　ろひのるん
盃海　まるて　化絵よ
ふをゆうとのるく
ろひくくぬるるく
ろうろいてうてと　年は
限るて　ゆるるるぬ
くく　おをう　早下のいを
うくん　うろ　ん
るでうてゆうんぜさと
お上流よ　ゆうんさゆまる
うれぐうろゆまよ　ぬおさ
ふうう　御　まよ　郎ーく
のるるく

為ふくくるのくるん　あやちくくるるさ
ゆうくるるるるてはんゆくぐうろさ
てくれぐくるゆりくゆーを　花
えぬ山ぐいよ　ぬくくりのくれるるさ
うろをるくくようちひうくぬる面
るくいくくれるるぐ　年のゆくぐうう
ありてくうろいくくゆくぐるん　年
ふ面まくくられわくとづいくるくてるくん
ぐるるすぐくるるくのぐくすくぐくくさ
やうるのうるれ　年くやあくんとくこう
ドまくぐるるよのくえもうろうくるるち
てるくくぐくさわくるるくねぐくちくくよ

[illegible] 此後今は源氏の後とおもふ人のおほくて [illegible]
[illegible] 人のひつてんと見給へし [illegible] 細 [illegible]
[illegible]

[illegible] 師 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

孟冷の家とをぐれてあそ
びぞ。ゆゑ〳〵への上ものの仏
とをくきけるものとゝ
うゝすとをう仰古の上ま
の益ゆもあるとゝくゝ
ゆゝくゝ　暁　書司　女房
二人のつゝき
和琴をぞあづかるとき
先和琴をとるぞ。ゆ仏の
樂器のゆゝくゝ
見細同　とゝ家の巻ゝ家注
少將の命婦　おけ人　琵琶
をひくゝ後合の人敷た
方の人とゝ
ゝゝし給ひて　花山殿
いまゝゝゝゝゝ人物よ
とゝゝゝ。物をもゝを付
ゝとゝゝ。天德内合詠歌
之所　藤原信長朝臣
侍臣召人ゝ仰せ

ゝゝゝゝの巻ゝ中ゝ
ぬるぞかゝるとゝ
ゝゝひるゝゝ
ゝゝれゝゝ
いまぞゝゝ
給ゝゝ
権中納ゝ
ゝゝ。孟冷の命婦ゝゝ
ゝゝ人の中ゝ
ゝゝ給ゝゝ
ゝゝ

ゝゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川夕雲の名の姫君
暁夕雲もかの年ごろ又の
又といふまもなきまくらに
ゆくよほのぐらく世を青き
いろ地にかきて　孟市堂を市建立
ぢちんかいまうりぐうとかほの
ちかの別ハちりぐうーと見ることとろくんてくさ